

火星からの侵略

パニックの心理学的研究



高橋祥友

訳 高橋祥友

発行 金剛出版

四六判 / 250頁

定価 本体2,200円＋税

発行年月 2017年11月

たかはし よしとも

筑波大学医学医療系災害・地域精神医学教授。専門は精神医学。著書はほかに『自殺の危険：臨床的評価と危機介入 第3版』（金剛出版）、『医療者が知っておきたい自殺のリスクマネジメント 第2版』（医学書院）、『自殺予防』（岩波新書）、『ソシオパスの告白』（訳、金剛出版）、『精神科初回面接』（監訳、医学書院）、『災害精神医学入門』（共編、金剛出版）など。

1938年10月30日のハロウィーンの晩に、名優オーソン・ウェルズ主演のラジオ劇が放送された。その内容は、火星人が米国ニュージャージー州に攻めてきたが、軍隊はまったく歯が立たず、多くの犠牲者が出ているというものだった。この番組の描写があまりにもありありとしていたため、現実の事件と信じこんだ多くの人々がパニックに陥った。

事件直後から、若き社会心理学者ハドリー・キャントリルが調査し、1940年に本書の初版が出版された。そして、この本はコミュニ

ケーション学や社会心理学の古典となった。そして、原著者の息子アルバート・H・キャントリルが新たに解説を付け加えて、2008年に再出版したのが本書である。

この事件が起きた1930年代後半にはラジオが比較的新しいメディアとして登場していた。さて、本書の知見は、ラジオ以外にもテレビやインターネットなどのメディアが発達した現代においても十分に応用可能である。一方的に与えられた情報をどのように確認し、適切な判断を下すべきかについて多くの示唆が与えられている。

日常と非日常からみる こころと脳の科学



山田祐樹

編著 宮崎真・阿部匡樹・

山田祐樹ほか

発行 コロナ社

A5判 / 206頁

定価 本体2,600円＋税

発行年月 2017年10月

やまだ ゆうき

九州大学基幹教育院准教授。専門は認知心理学、知覚心理学。著書はほかに『感性認知：アイステーションの心理学』（分担執筆、北大路書房）、*Awareness shaping or shaped by prediction and postdiction*（共編、Frontiers Media）など。

本書は「自分でくすぐってもくすぐったくない」といった日常生活でお馴染みの経験、また「人工的に体外離脱を起こす」といった特殊条件下での不思議な体験を手がかりに、「こころ」とそれを織り成す「脳」に関する科学的知見を紹介している。計27のトピックからなり、心理学や神経科学で定番の知見だけでなく、最新の知見も多く収録している。またそのうち半数以上は原著論文の著者自身が執筆している。

読者層としては、初学者レベルの大学生を中心に想定している

が、同時に、大学院生以上の読者にとって定番知見の復習や最新知見のチェックに役立つことも目指した。そのため、図解、引用文献とキーワード、さらには詳細な用語集も取り揃えている。本書は授業のテキストとして用いることもでき、1回の授業の中で一つのトピックをじっくり深めたり、関連するトピックを組み合わせたりできる。大学院での本格的な研究指導のイントロダクションに使用してもよいだろう。様々な読者が、それぞれの楽しみ方で本書を利用してくれることを期待する。